

事務所名	中部教育事務所	学校名	花巻市立太田小学校	TEL	0198-28-2212
------	---------	-----	-----------	-----	--------------

「言語活動の工夫改善」と「振り返り」を中心とした授業改善の取組

【ねらい】

本校児童の学力の向上を図るため、全国学力・学習状況調査（全国学調）や、岩手県学習定着度状況調査（県学調）の結果から、課題を明らかにし、それを克服するための具体的な方策に取り組むとともに、家庭や地域にも働きかける。

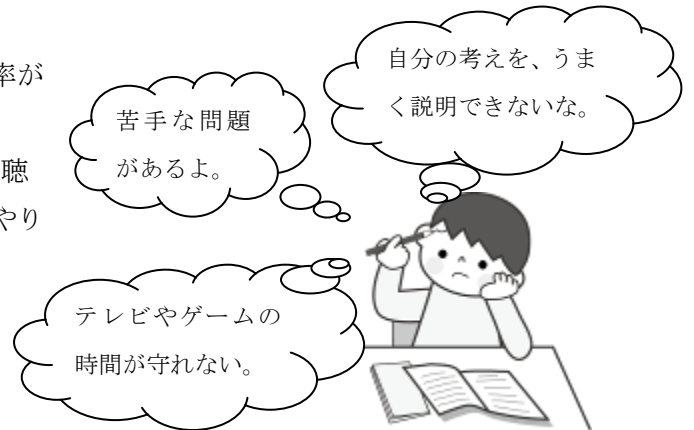
【具体的な取組】

1 全国学調・県学調の活用 ～結果を分析し全職員で共通理解～

(1) 前年度の結果の分析

＜全国学力・学習状況調査から＞

- ・国語は、A問題では「言語についての知識・理解・技能」が、B問題では「話すこと・聞くこと」の正答率が全国、県平均を下回っていた。
- ・算数はA問題、B問題ともに「数量関係」の正答率が全国、県平均を下回っていた。
- ・質問紙調査では、学習に関する意欲や、テレビ視聴ゲーム時間などに課題があるとともに、粘り強くやり遂げることや、みんなの前で発表することなどを苦手とする傾向がみられた。



＜岩手県学習定着度状況調査から＞

- ・算数、理科の正答率が県平均を上回った。
- しかし中には正答率の低い児童もあり、上位群と下位群の二極化が見られる。
- ・国語は4年、5年とも、「説明する」「意見を書く」という記述問題につまずきが多かった。
- ・質問紙調査では、全国の調査と同様、テレビやビデオの視聴時間が多かった。

(2) 校内研究会で全国学調と、県の学調問題を解き分析

全職員が、全国学調の国語、算数、県学調の5年の三つのグループに分かれてテスト問題を解き、問題分析を行った。定着の難しい問題や、間違えやすい問題を中心に検討し、指導で気を付けることについて話し合った。

【テスト分析の手順】

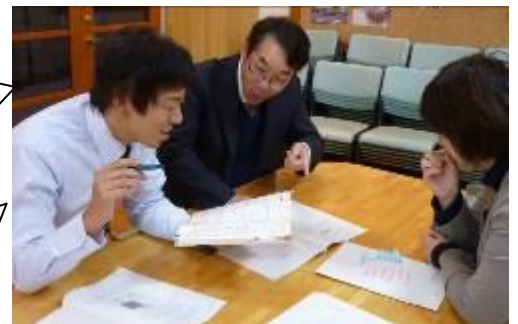
- ① 各教科 20 分で解答し、答え合わせをする。時間があれば他のテストにも取り組む。
- ② 各教科ごとに、定着の難しい問題や、間違えやすい問題を中心に検討し、指導で気を付けることについて話し合う。
- ③ テストに出ている問題に関する指導内容を確認し、教科書、指導書にシールを付ける。

子供たちに付けなければならない力がわかる。

職員間の共通理解を図ることができる。

学校全体の学力向上への意識が高まる。

正答率の低い問題や、単元がチェックできる。



2 授業では ～校内研究を中心とし、授業改善を図る～

(1) 言語活動の工夫・改善を図る授業

各教科において「つきたい力」「目指す子どもの姿」を明確にするとともに、言語活動の工夫・改善を図る授業を行った。以下の点について授業研究会などで話し合った。

- ア、「聞く、話す、書く、読む」活動のあり方
- イ、考えを高めるための交流のあり方
- ウ、学習形態・場の設定
- エ、発問の工夫



自分の考えを
確かなものに
するために書
く。



わかったことをペアでインタ
ビューし合う。低学年から言葉の力
を育む。

解決方法を自分の言葉
で説明する。



考えを広げたり深めたり
するために、グルー
プで交流する。



(2) 学習したことを「振り返る活動」を設定した授業

児童自身が、授業で「できた」「わかった」「考えを話して良かった」と実感することができるよう、単元や単位時間の中に「学習を振り返る活動」を設定した。学習感想の発表や「振り返りシート」の記入を行った。児童の頑張りを教師が評価したり、友達の良い点を認め合ったりすることにより学習意欲が向上すると考えた。

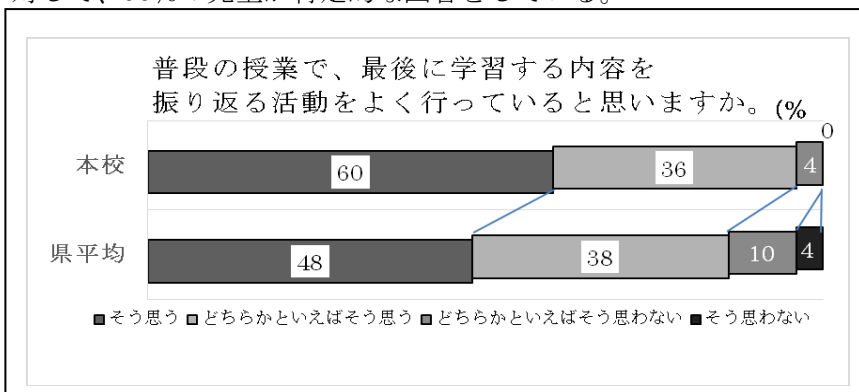


- 学習のめあてを達成できたか
- 進んで考え、発表できたか
- 友だちから学び合うことができたか
- 学習感想
などを「振り返りシート」に、記入
する。



今年度の県学調の児童質問紙では「普段の授業で、最後に学習する内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。」という質問に対して、96%の児童が肯定的な回答をしている。

各教科の振り返りシート例



算数ふりかえりシート

名前 _____

【たし算とひき算の筆算】

学習したこと 振り返った ポイント	わかったこと ・得意なこと ・がんばったこと など
第1問	この計算のしりぞきと上り算で、 はたはいいことがありました。これ からはよくしりぞき、上り算でも 今日はずり算でいいので、
第2問	千の位もある人となんと同じ たの位とあるのたの位と 3けたのひ、銀のひき算をして、 これも2年のときと同じやりかた でできるといことがわかりました。
第3問	今日、くり下げが書きました でも、くり下げのやりかたが わからなかったことがわかりました。
第4問	100の位のひき算のとととと、 百の位、千の位とくり下り算は はいいことがわかりました。

(3) 「基盤となる力」の育成

児童の学びを支えるものとして「基盤となる力」を全職員で確認し、指導を徹底した。「はっきり話す」「話している人の方に体を向けて聞く」など学習の基本となる姿勢は繰り返し指導した。学校行事や委員会、全校の集会になどでも、全職員が同じ姿勢で児童の指導にあたっている。低学年から指導を積み重ねることによって、望ましい学習姿勢が身に付いてきている。また音読、視写、暗唱など家庭学習と連動させて取り組んでいる。



<基盤となる力>

- ・聞き方
- ・話し方
- ・返事
- ・挨拶
- ・時間を守る
- ・丁寧に書く

(4) 全校学習アンケートの実施

各種調査の質問紙を参考に、学習に関するアンケートを作成した。

全校児童を対象にアンケートを実施し、学習に対する意欲や関心、学習規律、家庭学習についての実態を調査した。分析結果をもとに授業の改善に活かしていきたい。

3 家庭学習では ～家庭や地域と一体になり望ましい学習習慣の形成を図る～

(1) 家庭を学びの環境に

「家庭学習の手引き」「学習用具のきまり」を配布し、家庭に理解と協力を求めた。また、PTA総会、地区懇談会、学級懇談会など機会をとらえて、家庭学習の取組について確認した。

家庭学習の約束

- 1 時間を決めて毎日取り組む(学年×10分以上)
- 2 机の上には学習用具だけを置く
- 3 テレビを消す
- 4 文字をていねいに正しく書く
- 5 子どもの頑張りを認めてあげ、ほめてあげる

(2) ノーテレビデー

テレビの視聴時間が長いことから、西南中学校区の小中学校4校で「ノーTVデー」(TV、PCゲームなし)の日を年間5日間設定した。ノーテレビデーの日は学習に集中して取り組むとともに、読書をしたり家族団欒の時間をもったりしている。

【成果】

- 全国・県学調の分析等に取り組んだことにより、教職員の意識も高まり全校体制で学力向上に当たることができている。
- 言語活動の工夫、振り返り活動等を通じた授業改善や「話し方」「聞き方」など学習の基盤となる力の育成が、児童の学力向上に役立っている。
- 家庭の理解と協力を得て、家庭学習はほとんどの児童が取り組んでおり、望ましい学習の習慣が身に付きつつある。



学校教育目標	未来を拓く太田の子		
かんがえる子	明るくおおらかな子	たくましい子	

めざす子どもの姿

- 学習活動の中で、分かったこと、気付いたこと、感じたこと、思ったことなど自分自身の言葉で書いたり話したりする子ども。
- 自分の考えを相手に積極的に伝えたり、喜んで伝えたりする子ども。

児童の学力向上

校内研究を中心とした授業改善

【研究主題】自分の考えを持ち進んで表現する子どもの育成

手立て1 「つきたい力」「目指す子供像」を明確にした授業	手立て2 言語活動の工夫・改善を図る授業	手立て3 学習したことを「振り返り活動」を設定した授業
---------------------------------	-------------------------	--------------------------------

家庭学習

- ・家でのくらしのめやす
「早寝、早起き、朝ご飯」「テレビ、ゲームは2時間以内」
- ・家庭学習の約束
- ・学習用具のきまり
- ・学年×10分以上

授業と家庭学習との連動

基盤となる力

- ・聞き方
- ・話し方
- ・返事
- ・挨拶
- ・時間を守る
- ・丁寧に書く

基礎・基本の定着

- 音読、視写力の向上（必達目標の設定）
- 朝読書○暗唱（高村光太郎作品含む）
- 「言葉の玉手箱」の活用
- 朝学習での補充指導
ドリル、アシストシート等
- 学期末漢字計算テスト
（90点以上合格）

指導内容・方法の工夫

- 個に応じた指導
- TT、少人数指導

全国・県比100以上を目指す

- ◎全国学力・学習状況調査（6年）
- ◎岩手県学習定着度状況調査（5年）
- ◎CRT（1～6年）
- ・テスト問題を教師が実際に解いてみる。
- ・分析を行い、補充指導をする。

豊かな心と人間関係を育む学級経営をベースに学力向上が成り立つ